

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月12日
【四半期会計期間】	第37期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 畠中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第3四半期 連結累計期間	第37期 第3四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
営業収入 (千円)	26,154,913	29,806,511	33,770,531
経常利益 (千円)	2,891,495	3,544,135	3,769,181
四半期(当期)純利益 (千円)	1,680,260	2,227,898	2,205,738
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,794,268	2,412,621	2,330,209
純資産額 (千円)	17,116,089	20,723,406	17,215,754
総資産額 (千円)	25,779,788	30,724,253	24,791,678
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	189.77	258.08	250.16
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.6	61.0	67.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	978,314	2,171,729	628,579
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	974,573	1,117,258	943,037
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	363,995	1,088,409	800,165
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	5,853,767	9,208,895	7,024,401

回次	第36期 第3四半期 連結会計期間	第37期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	55.23	64.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

当社グループ(当社及び当社関係会社)は、総合エンターテインメント企業である当社を中心として、当第3四半期連結累計期間に新たに設立いたしましたAMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.、(株)TOKYO FANTASY、(株)アミューズクエスト、Amusequest Tokyo Tower有限責任事業組合、(株)インターグループプロダクションズを加え、子会社21社及び関連会社4社により構成されることとなりました。

グループ展開により、単なるプロダクションの枠組みを超えて、グループ全体の事業の核を「コンテンツビジネス」におき、文化を創造する総合エンターテインメント集団としての企業基盤の強化を図っております。

なお、当第3四半期連結累計期間における連結子会社は、新たに設立いたしましたAMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.、(株)TOKYO FANTASY、(株)アミューズクエスト、Amusequest Tokyo Tower有限責任事業組合、(株)インターグループプロダクションズの6社を含め計13社となっております。

事業内容と当社グループの当該事業にかかる位置付けは、以下のとおりであります。

事業区分	主要事業	会社名
アーティストマネジメント事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント収入 (コンサート・イベント・舞台等の収入、ミュージアム・文化施設等の運営収入) ・ ファンクラブ・商品売上収入 (アーティストグッズ等の企画・制作・販売収入、音楽作品の発売による収入、ファンクラブ会費収入) ・ 出演収入・CM収入 ・ 印税収入(新譜) (初回収益計上日より1年以内分) 	当社 タイシタレーベルミュージック(株) (株)A - S k e t c h (株)アミューズエデュテインメント (株)芸神クリエイティブ (株)TOKYO FANTASY (株)インターグループプロダクションズ AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd. (シンガポール) Amuse Group USA, Inc. (米国) 北京芸神演芸芸術制作有限公司(中国) Amuse Korea Inc. (韓国) 雅慕斯娛樂股份有限公司(台湾) 上海芸神貿易有限公司(中国) Amuse Hong Kong Limited (香港) 艾米斯 ²⁵ 媒(上海)有限公司(中国) Khan Enterprise Co.,Ltd. (韓国) (株)MASH A & R
メディアビジュアル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像作品販売収入 ・ 映像製作収入 ・ 番組制作収入 	当社 アミューズソフトエンタテインメント(株)
コンテンツ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽・映像収入(旧譜) (音楽は初回収益計上日より1年超経過分、映像は同2年超経過分) 	当社 アミューズソフトエンタテインメント(株) タイシタレーベルミュージック(株) (株)A - S k e t c h (株)エアーズ (株)TOKYO FANTASY Kirei Inc. (米国)
その他事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンターテインメントライブ・映画・ドラマ作品等収録物の企画・制作・配給・宣伝 ・ ロケーションビジネス及びインバウンドビジネスの企画・開発・運営 ・ 企業及び個人向け人材育成事業収入 ・ ベルギービール等の飲食店の展開、輸入及び卸売販売 	(株)ライブ・ビューイング・ジャパン (株)アミューズクエスト Amusequest Tokyo Tower有限責任事業組合 (株)ジェイフィール ブラッセルズ(株) (株)V - S k e t c h

当第3四半期連結累計期間に新規設立した子会社は下記のとおりであります。

平成26年4月 AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd. (シンガポール)
 平成26年6月 Amuse Group USA, Inc. (米国)、(株)TOKYO FANTASY
 平成26年7月 (株)アミューズクエスト
 平成26年10月 Amusequest Tokyo Tower有限責任事業組合
 平成26年11月 (株)インターグループプロダクションズ

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

（当第3四半期連結累計期間の経営成績）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）	増減	増減率 （％）
営 業 収 入	26,154	29,806	3,651	14.0
営 業 利 益	2,732	3,336	604	22.1
経 常 利 益	2,891	3,544	652	22.6
四 半 期 純 利 益	1,680	2,227	547	32.6

〔経済状況〕

我が国経済は、政府、日銀の各種政策効果もあり、企業収益に一部改善の兆しも見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税率引上げに伴う駆け込み需要反動の長期化、円安進行による輸入物価上昇など、個人消費を中心に懸念材料も多く、依然として先行き不透明な状況であります。

〔当社グループの事業概況〕

当社グループの経営成績は営業収入298億6百万円（前年同四半期比14.0%増）、営業利益33億3千6百万円（前年同四半期比22.1%増）、経常利益35億4千4百万円（前年同四半期比22.6%増）、四半期純利益22億2千7百万円（前年同四半期比32.6%増）となり、大型コンサートの実施により会場やオンラインショップで販売するグッズ販売収入も含め好調に推移し、増収増益となりました。

<営業収入>

- ・ 当社アーティストによるイベント収入（大型コンサート）が増加
- ・ コンサートに付随してグッズ販売収入が増加
- ・ 当社アーティスト出演作品が好調だったことにより、DVD販売収入が増加
上記要因などにより増収となりました。

<営業利益、経常利益、四半期純利益>

増収要因により増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（営業収入）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）	増減	増減率 （％）
アーティストマネジメント事業	21,699	23,969	2,270	10.5
メディアビジュアル事業	2,805	4,019	1,214	43.3
コ ン テ ン ツ 事 業	1,650	1,817	166	10.1
合 計	26,154	29,806	3,651	14.0

(セグメント利益)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネージメント事業	2,743	3,060	316	11.5
メディアビジュアル事業	39	275	236	606.4
コンテンツ事業	535	624	89	16.7
調整額	586	624	38	-
合計	2,732	3,336	604	22.1

【アーティストマネージメント事業】

営業収入239億6千9百万円(前年同四半期比10.5%増)、セグメント利益30億6千万円(前年同四半期比11.5%増)となり、増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ イベント収入：<コンサート>
福山雅治(4-6月、11-12月)、Perfume(8-9月)
flumpool(4-8月)のコンサートツアー
サザンオールスターズの年越しライブ(12月)
ボルノグラフィティ、ONE OK ROCKのスタジアムライブ(9月)
BABYMETALのWORLD TOUR日本公演(9月)
昨年度に引き続き当社音楽アーティストが一堂に会した野外イベント
「Amuse Fes 2014 BBQ inつま恋」(7月)
<舞台・公演>
熱海五郎一座「天然女房のスパイ大作戦」(6月)、ミュージカル「黒執事」(9月)
若手俳優によるファン感謝祭「SUPERハンサムLIVE」(12月)
- ・ 商品売上収入：コンサートグッズ、福山雅治ツアーDVD、flumpoolのベストアルバムなど
- ・ 出演収入・CM収入：福山雅治、大泉洋、佐藤健、三浦春馬、深津絵里、上野樹里、吉高由里子など
- ・ 印税収入(新譜)：福山雅治(4月アルバムCD)、Perfume(4月DVD)

<営業収入>

- ・ イベント収入(大型コンサートの実施)が増加
(前年同四半期はサザンオールスターズ(8-9月)、ONE OK ROCK(5-6月)のコンサートツアー、福山雅治の年末ライブ(12月)、Perfumeドームライブ(12月)、熱海五郎一座(6-7月)、黒執事(5-6月)、SUPERハンサムLIVE(12月)などの舞台・公演を実施)
- ・ 商品売上収入が増加
上記要因などにより増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により増益となりました。

【メディアビジュアル事業】

営業収入40億1千9百万円(前年同四半期比43.3%増)、セグメント利益2億7千5百万円(前年同四半期比606.4%増)となり、大幅な増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ 映像作品販売収入：邦画実写歴代6位を記録した「永遠の0」(7月)、福山雅治主演映画「そして父になる」(4月)、佐藤健主演映画「るろうに剣心 京都大火編」(12月)・「カノジョは嘘を愛しすぎて」(6月)などのDVD販売収入
- ・ 映像製作収入：「そして父になる」などの劇場配給分配収入

<営業収入>

- ・ 大ヒット映画「永遠の0」に加え、当社アーティスト主演作品が好調だったことにより、DVD販売収入が増加（前年同四半期は「真夏の方程式」（12月）、「ガリレオ」（9月）、「リアル～完全なる首長竜の日～」（12月）などを販売）
上記要因などにより大幅な増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により大幅な増益となりました。

【コンテンツ事業】

営業収入18億1千7百万円（前年同四半期比10.1%増）、セグメント利益6億2千4百万円（前年同四半期比16.7%増）となり、増収増益となりました。

[主な事業]

- ・ サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfumeなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用

<営業収入>

著作権印税の増加、PerfumeのVideoClip集の発売などにより増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ21億8千4百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末には92億8百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	978	2,171	3,150
投資活動によるキャッシュ・フロー	974	1,117	142
財務活動によるキャッシュ・フロー	363	1,088	1,452

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は21億7千1百万円（前年同四半期は9億7千8百万円の使用）となりました。

これは、主に営業債権の増加及び法人税等の支払による資金減少要因等はありませんが、税金等調整前四半期純利益及び営業債務の増加に伴う資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は11億1千7百万円（前年同四半期は9億7千4百万円の使用）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得、子会社株式の取得及び貸付けによる資金減少要因等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は10億8千8百万円（前年同四半期は3億6千3百万円の使用）となりました。

これは、主に配当金の支払による資金減少要因等はありませんが、少数株主からの払込みによる資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,247,040
計	37,247,040

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,311,760	9,311,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,311,760	9,311,760	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	9,311,760	-	1,587,825	-	1,694,890

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 679,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,455,100	84,551	-
単元未満株式	普通株式 177,260	-	-
発行済株式総数	9,311,760	-	-
総株主の議決権	-	84,551	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	679,400	-	679,400	7.30
計	-	679,400	-	679,400	7.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,049,520	11,235,008
受取手形及び営業未収入金	4,042,575	6,351,961
商品及び製品	1,297,490	1,472,131
仕掛品	1,921,201	1,617,129
貯蔵品	51,273	52,009
その他	1,396,170	1,866,404
貸倒引当金	288,321	334,279
流動資産合計	18,469,911	22,260,365
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,005,643	1,101,237
土地	2,047,730	2,058,795
その他(純額)	185,342	1,280,332
有形固定資産合計	3,238,715	4,440,366
無形固定資産	198,723	191,768
投資その他の資産		
投資有価証券	1,352,153	1,587,712
その他	1,538,270	2,167,741
貸倒引当金	6,096	6,075
投資その他の資産合計	2,884,327	3,749,379
固定資産合計	6,321,766	8,381,514
繰延資産		
開業費	-	82,374
繰延資産合計	-	82,374
資産合計	24,791,678	30,724,253

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	5,185,239	6,969,479
未払法人税等	705,419	641,780
役員賞与引当金	25,000	-
返品調整引当金	7,400	19,100
その他	675,541	1,349,073
流動負債合計	6,598,600	8,979,433
固定負債		
役員退職慰労引当金	16,472	16,472
退職給付に係る負債	898,152	941,864
その他	62,697	63,076
固定負債合計	977,322	1,021,413
負債合計	7,575,923	10,000,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	1,694,890	1,694,918
利益剰余金	14,472,559	16,376,725
自己株式	924,923	928,745
株主資本合計	16,830,350	18,730,723
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,335	29,608
為替換算調整勘定	93,052	4,647
その他の包括利益累計額合計	74,716	24,960
少数株主持分	460,120	1,967,722
純資産合計	17,215,754	20,723,406
負債純資産合計	24,791,678	30,724,253

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収入	26,154,913	29,806,511
営業原価	21,132,524	23,626,706
営業総利益	5,022,389	6,179,805
返品調整引当金繰入額	-	11,700
返品調整引当金戻入額	25,100	-
差引営業総利益	5,047,489	6,168,105
販売費及び一般管理費	2,315,473	2,831,220
営業利益	2,732,015	3,336,884
営業外収益		
受取利息	4,240	5,877
受取配当金	5,058	15,239
為替差益	128,347	122,433
受取手数料	3,590	10,532
事業組合投資利益	-	30,652
持分法による投資利益	56,603	17,595
その他	10,322	6,234
営業外収益合計	208,163	208,565
営業外費用		
事業組合投資損失	44,355	-
固定資産除却損	4,321	1,067
その他	6	246
営業外費用合計	48,683	1,314
経常利益	2,891,495	3,544,135
税金等調整前四半期純利益	2,891,495	3,544,135
法人税、住民税及び事業税	1,029,493	1,274,472
法人税等調整額	112,702	43,282
法人税等合計	1,142,196	1,231,190
少数株主損益調整前四半期純利益	1,749,299	2,312,944
少数株主利益	69,038	85,046
四半期純利益	1,680,260	2,227,898

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,749,299	2,312,944
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,992	11,272
為替換算調整勘定	35,976	88,404
その他の包括利益合計	44,969	99,677
四半期包括利益	1,794,268	2,412,621
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,725,229	2,327,575
少数株主に係る四半期包括利益	69,038	85,046

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,891,495	3,544,135
減価償却費	143,994	155,510
貸倒引当金の増減額(は減少)	6,413	45,937
役員賞与引当金の増減額(は減少)	37,200	25,000
返品調整引当金の増減額(は減少)	25,100	11,700
退職給付引当金の増減額(は減少)	13,161	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	43,711
受取利息及び受取配当金	9,299	21,116
持分法による投資損益(は益)	56,603	17,595
事業組合投資損益(は益)	44,355	30,652
固定資産除却損	4,321	1,067
営業債権の増減額(は増加)	3,004,766	2,302,905
たな卸資産の増減額(は増加)	415,930	135,146
営業債務の増減額(は減少)	2,178,633	1,780,418
未払消費税等の増減額(は減少)	30,048	165,953
その他の流動資産の増減額(は増加)	636,445	281,275
その他の流動負債の増減額(は減少)	178,138	557,156
その他	276,620	293,438
小計	672,318	3,468,752
利息及び配当金の受取額	9,001	15,264
法人税等の支払額	1,664,091	1,334,176
法人税等の還付額	4,457	21,889
営業活動によるキャッシュ・フロー	978,314	2,171,729
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,502,680	1,500,993
定期預金の払戻による収入	2,000,000	2,500,000
有形固定資産の取得による支出	35,082	1,320,320
有形固定資産の売却による収入	-	5,000
無形固定資産の取得による支出	49,341	63,492
投資有価証券の取得による支出	276,361	-
子会社株式の取得による支出	72,628	200,459
子会社出資金の取得による支出	-	60,000
貸付けによる支出	6,097	227,620
貸付金の回収による収入	2,066	13,174
繰延資産の取得による支出	-	82,374
その他	34,448	180,173
投資活動によるキャッシュ・フロー	974,573	1,117,258
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	4,535	3,930
自己株式の売却による収入	-	137
少数株主からの払込みによる収入	-	1,433,500
配当金の支払額	332,218	322,928
少数株主への配当金の支払額	19,530	10,944
その他	7,711	7,425
財務活動によるキャッシュ・フロー	363,995	1,088,409
現金及び現金同等物に係る換算差額	44,314	41,613
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,272,568	2,184,493
現金及び現金同等物の期首残高	8,126,336	7,024,401
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,853,767	9,208,895

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.及び(株)T O K Y O F A N T A S Yの3社を新たに設立したため、連結の範囲に含めており、第2四半期連結会計期間より、(株)アミューズクエストを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間より、Amusequest Tokyo Tower有限責任事業組合及び(株)インターグローヴプロダクションズの2社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金勘定	8,877,042千円	11,235,008千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,023,274	2,026,112
現金及び現金同等物	5,853,767	9,208,895

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月23日 定時株主総会	普通株式	132,830	15.0	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金
平成25年11月13日 取締役会 (注)	普通株式	199,209	22.5	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳 普通配当 15.0円 記念配当 7.5円

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月22日 定時株主総会 (注)	普通株式	194,247	22.5	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金
平成26年11月13日 取締役会	普通株式	129,485	15.0	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳 普通配当 15.0円 記念配当 7.5円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	21,699,491	2,805,091	1,650,330	26,154,913	-	26,154,913
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	44,630	195,919	73,664	314,213	314,213	-
計	21,744,121	3,001,010	1,723,994	26,469,127	314,213	26,154,913
セグメント利益	2,743,962	39,063	535,150	3,318,176	586,161	2,732,015

(注)1. セグメント利益の調整額 586,161千円には、セグメント間取引消去17,959千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 604,120千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	23,969,676	4,019,789	1,817,045	29,806,511	-	29,806,511
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	51,134	247,422	102,729	401,287	401,287	-
計	24,020,811	4,267,212	1,919,774	30,207,799	401,287	29,806,511
セグメント利益	3,060,791	275,952	624,689	3,961,433	624,548	3,336,884

(注)1. セグメント利益の調整額 624,548千円には、セグメント間取引消去5,393千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 629,941千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	189円77銭	258円08銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	1,680,260	2,227,898
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	1,680,260	2,227,898
普通株式の期中平均株式数 (株)	8,854,026	8,632,596

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成27年 1 月20日開催の取締役会において、当社の全額出資の連結子会社であるアミューズソフトエンタテインメント株式会社 (以下アミューズソフト) を、平成27年 3 月 1 日付で吸収合併することを決議いたしました。

1 . 合併の目的

アミューズソフトは、主に映像作品の制作、パッケージ製造、販売を行っておりますが、メディアチェンジ等業界環境の変化を背景に、近年市場規模の縮小が進んでおります。同社は平成22年 3 月期の構造改革を踏まえ、アミューズアーティスト出演の映像作品、当社グループがマネジメントしているアーティストの音楽作品を増やし、コンテンツの制作からパッケージまで一貫したビジネスモデルのシェアを高めることで、財務体質の改善を行い一定の結果を残すことができました。

しかしながら、市場環境は引き続き厳しい状況であり、今回コンテンツホルダーである当社がメーカーであるアミューズソフトを吸収合併することとし、一体化することで案件創出機能の強化、プラットフォームの共有化、機能の統合によるさらなる効率化、事業の迅速化を行い、今後のアミューズグループ全体のメディアビジュアル事業の再構築・強化を図ります。

2 . 合併の要旨

(1) 合併の日程

合併決議取締役会 平成27年 1 月20日
合併契約締結日 平成27年 1 月20日
合併期日 (効力発生日) 平成27年 3 月 1 日 (予定)

本合併は、当社においては会社法第796条第 3 項に規定する簡易合併であり、アミューズソフトにおいては会社法第784条第 1 項に規定する略式合併であるため、いずれも合併契約承認株主総会は開催しません。

(2) 合併方式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、アミューズソフトは解散いたします。

なお、アミューズソフトは債務超過状態ですが、合併に先立ち当社がアミューズソフトに対して有する債権を一部放棄し、アミューズソフトにおいては債務免除益を計上することにより債務超過状態が解消されます。

(3) 合併に係る割当ての内容

当社の100%連結子会社との吸収合併であるため、本合併による新株式の発行及び資本金の増加並びに合併交付金の支払いはありません。

(4) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

アミューズソフトは、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

3. 合併当事会社の概要（平成26年3月31日現在）

	吸収合併存続会社	吸収合併消滅会社
(1) 商号	株式会社アミューズ	アミューズソフトエンタテインメント株式会社
(2) 所在地	東京都渋谷区桜丘町20番1号	東京都世田谷区中町五丁目16番3号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 畠中 達郎	代表取締役社長 畠中 達郎
(4) 事業内容	アーティストマネジメント、映画・テレビ番組の企画制作など	映像作品の制作、製造、販売
(5) 資本金	1,587,825千円	450,500千円
(6) 設立年月日	昭和53年（1978年）10月16日	平成6年（1994年）4月1日
(7) 発行済株式数	9,311,760株	6,000株
(8) 決算期	3月31日	3月31日
(9) 大株主及び持株比率 （注）	株式会社オオサト 27.05% 大里洋吉 2.61% 大里久仁子 2.53% アミューズアーティスト持株会 2.51%	株式会社アミューズ 100.00%
(10) 純資産	17,215,754千円（連結）	1,046,971千円（単体）
(11) 総資産	24,791,678千円（連結）	1,960,625千円（単体）
(12) 1株当たり純資産	1,940.83円（連結）	174,495.33円（単体）
(13) 営業収入	33,770,531千円（連結）	4,379,503千円（単体）
(14) 営業利益	3,644,404千円（連結）	134,279千円（単体）
(15) 経常利益	3,769,181千円（連結）	104,540千円（単体）
(16) 当期純利益	2,205,738千円（連結）	71,115千円（単体）
(17) 1株当たり 当期純利益	250.16円（連結）	11,852.58円（単体）

（注）株式会社アミューズの持株比率は自己株式（678,541株）を控除して計算しております。

4. 合併後の状況

本合併による当社の商号、事業内容、本店所在地、代表者、資本金及び決算期の変更はありません。

5. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。

2【その他】

平成26年11月13日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）配当金の総額.....129,485千円

（ロ）1株当たりの金額.....15円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年12月5日

（注）平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月12日

株式会社アミューズ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 百井 俊次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。